

泌乳中後期における高糖分高消化性イネ「たちすずか」WCSの給与技術

研究のねらい

高糖分高消化性イネホールクロップサイレージ（WCS）は、従来の穂重型専用品種と比べ穂や籾の割合が極めて低く、茎葉部の糖含量と繊維消化性が高い特徴を持ち、従来品種 WCS を給与する酪農家の期待は高まっています。

そこで、高糖分高消化性イネ WCS の嗜好性や適正な給与水準等の特性を明らかにするため、高糖分高消化性茎葉型品種「たちすずか」と従来茎葉型品種「リーフスター」の WCS を泌乳中後期の乳牛へ給与し、飼料摂取量、乳量および乳成分について比較検討しました。

なお、本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「栄養収量の高い国産飼料の低コスト生産・利用技術の開発」により実施しました。

技術の特徴

- 「たちすずか」は出穂期にコンバイン型収穫機で WCS に調製し、乾物飼料中に 25 % 混合し発酵させた混合飼料（発酵 TMR）を調製・給与しました（表 1）。

表 1 飼料組成および飼料成分（設計値・乾物中%）

	たちすずか	リーフスター
たちすずかWCS	25.0	
リーフスターWCS		25.0
トウモロコシサイレージ	10.7	10.7
アルファルファ乾草	13.9	13.9
市販配合飼料	47.9	47.9
加熱大豆粕	2.5	2.5

- 「たちすずか」発酵 TMR 給与では、乾物摂取量 24.6kg/日、日乳量 33.0kg/日、

乳脂率 4.13 % と両飼料とも同等の嗜好性、乳生産および乳成分であり、生産性に違いはありませんでした（図 1）。

- 中性デタージェント繊維（aNDFom）の消化率増加で、「たちすずか」発酵 TMR の可消化養分総量（TDN）は 67.1% となり、「リーフスター」発酵 TMR に比べ 2 % 程度増加しました（図 2）。

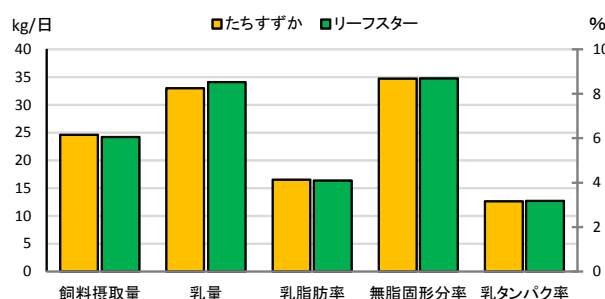


図1 飼料摂取量および乳生産

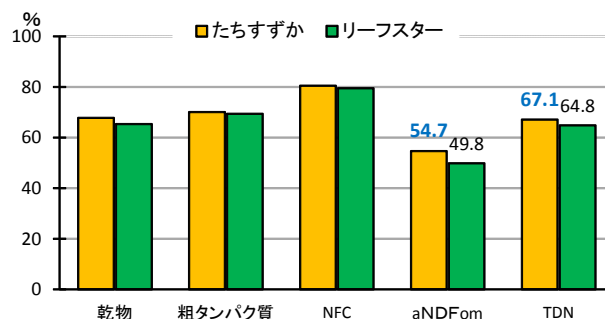


図2 飼料の消化率および可消化養分総量

※NFC：非繊維性炭水化物

今後の取り組み

収穫熟期の異なる WCS や泌乳前期牛への給与は、調査中です。今後も高糖分高消化性イネ給与技術の確立に取り組み、併せて普及にも努めて、飼料自給率向上および生産コスト低減につなげて行きます。

（執筆者：都丸 友久）

連絡先：群馬県畜産試験場 酪農係（電話027-288-2222）